

プロジェクト名：日本と中国の山岳地誌の比較思想史的研究

一山岳観の変容と交流

プロジェクト代表者：薄井 俊二（教育学部・教授）
分担者：飯泉 健司（教育学部・准教授）
分担者：大橋 修一（教育学部・教授）
分担者：小林 聡（教育学部・教授）
分担者：田村 均（教育学部・教授）

1 研究の目的

本研究は、古代から中世に至る期間に、日中両国で盛んに行われた山岳地誌編纂の諸相の比較検討を通して、日本と中国における山岳観の変容と、その交流について明らかにしようとするものである。

地理思想の研究は、日中両国にまたがる検討は、わずかな基礎研究を除いてほとんどなされていない。それは山岳地誌や寺観誌・寺社誌においても同様である。本研究は、こうした研究の空白地帯を埋めようとするものである。

また、本研究は中国や日本における山岳観・自然観の変遷を、中国においては仏教と道教、日本においては仏教と神道といった宗教思想の展開とあわせて捉えようというもので、両国の思想史研究に資するところが大であると考えられる。

2 研究の進め方

1の目的実現のため、三つの課題を設定した。そして5名の研究者による共同研究の形を取ったが、その内容と分担は下記の通り。（◎は責任者）

A：中国山岳地誌研究（担当：◎薄井、大橋、小林）

：中国における、山岳寺院・道観の創設と展開、山岳地誌の登場と展開の様相の解明。仏道教といった思想界の動きとの関連で、山岳観の変容を解明。

B：日本山岳地誌研究（担当：◎飯泉、田村、薄井）

：日本における、山岳寺院・神社・宗教施設の創設と展開、山岳寺院誌や神社誌の登場と展開の様相の解明。仏教・神道といった思想界の動きとの関連で、山岳観の変容を解明。

C：中日山岳地誌比較研究（担当：◎薄井、飯泉、田村）

：中国山岳地誌の日本伝来の様相の解明と、その影響関係の解明。

3 研究内容と成果

A：中国山岳地誌研究

・薄井は、2011年12月に浙江省金華山に出張し、現地調査と資料収集を行った。その成果は「中国の山岳と宗教見聞記（その四）一中岳嵩山・金華山」『埼玉大学国語教育論叢』（第15号、2012年）として公刊予定である。そこでは、2010年9月に行った河南省嵩山への調査報告も合わせて行っている。嵩山においては、漢唐時代の国家と山岳祭祀・仏教・道教との関わりを確認し、金華山においては洞窟と道教と

が深い関わりを持っていることを明らかにした。

・薄井は、中国の天台山に関わる資料として、盛唐期の詩文を検討し、その成果の一部を「天台山の詩歌（其五）—盛唐（上）」『埼玉大学紀要（教育学部）』第60巻第2号、「天台山の詩歌（其六）—盛唐（中の上）」『同前』第61巻第1号、として公刊した。そこでは、文学作品では、盛唐期の孟浩然や李白に至って、実際に天台山に赴いての作品が作られるようになり、道教の聖地としてのイメージが、より具体的になっていたことを明らかにした。

・薄井は、明代の「徐霞客遊記」の検討に着手し、その成果の一部を「徐霞客遊記訳注稿—名山遊記篇（一）遊天台山日記」『埼玉大学国語教育論叢』第14号、として公刊した。そこでは、徐霞客が観察した、明末天台山の仏寺道観の有り様を、自然景観の中において復元した。

・如上の諸研究により、中国における山岳宗教と山岳地誌編纂の関連、その変容が明らかになりつつある。

B：日本山岳地誌研究

・日本の山岳宗教を調査するため、薄井は2011年5月に鹿児島県と宮崎県に出張し、薩摩半島の知覧と宮崎の飫肥・清武における山岳宗教の様相を調査した。

・飯泉は、日本の地理書の中で、とりわけ「風土記」に着目し、その編纂の意図に注目して検討を加えた。その成果の一部を「播磨国風土記—『素朴』に隠された編纂者の知恵」『国文学 解釈と鑑賞』第76巻第5号、として公刊した。

・如上の研究により、日本における山岳宗教と山岳寺観誌編纂の関連、その変容が少しずつ明らかになりつつある。

C：中日山岳地誌比較研究

・AとBとの成果を踏まえつつ、両者の比較検討については、現在進行中である。

・当面の見通しとしては下記のことが予想される。

(1)日本の山岳宗教と寺観誌の検討を通しては、古来仏教と神道とは、決してあい入れないものではなく、山岳という「聖」なる「場」を共有して「習合」する傾向にあったことが指摘できる。

(2)中国の山岳宗教と山岳地誌の検討を通しては、日本の場合ほど明らかにはなっていないが、例えば「天台山記」を見ると、仏教と道教とが、天台山という「聖」なる「場」において共存したり、さらには相互に入り交じったりしている様が見える。嵩山や金華山においても、二つの宗教は必ずしもいつも対立するものではなく、共存したり習合する場合もあることが推測される。

4 外部資金の応募・採用状況

○採用（予定）：科学研究費補助金（基盤研究（C）） 2012年度～2014年度

総額 520 万円（直接経費 400 万円、間接経費 120 万円）

題目「徐霞客遊記の総合的研究—地理学史・文学史的位置づけを中心に」